



網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari
visitor center

Vol.107
2023.3



見えてないですよね？

窮鼠木に登る

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

縦横無尽な“ヒメネズミ”

3月に入り快晴が続いて少し早い春の訪れを感じる森の中でヒメネズミに出会いました。根開きにはまだ早いものの、木の根元付近のざらめ雪がとけ始めていた隙間から、体とよく似た濃い褐色のコケ類の上にちょこんと現れました。すぐに音もなく根元の割れ目にするりと入り込んだかと思うとまた現れ、また隙間に入り込みまた現れる…。そこに居合わせた数名が見つめる中、それに気づいているのかいないのか、せわしなく出たり入ったりを繰り返していました。その後隙間に入り込んでしまうとパタリと静かになりました。「さすがに警戒しているかな」と思いきや、木の反対側から「こちらに来たよ」との声。今度は反対側で出たり入ったり。窮鼠からはほど遠い軽やかな身のこなしで木の根元にぶら下がったり幹を這い上がったりするなどヒメネズミの独壇場となりました。ほどなくして幹から雪面に下りるとひたすら先に駆けて行き、最寄りの木の隙間に入り込んで姿が見えなくなりました。夜行性で視力はあまりよくはないものの、嗅覚は鋭く、聴覚も仲間同士が超音波でやり取りできるほど優れているはずなのに、スケールが違いすぎて人の姿や声に全く気づかなかったのでしょうか…？ヒメネズミから眺めるこちらの世界を想像してみたくなる出会いとなりました。

What is "Himenezumi"?

「森林に棲む小さなネズミ」

ネズミ科

頭胴長：72～99mm

分布：北海道～九州

夜行性で森林や草地に生息する。日本固有種。ドングリなどの種子や果実、昆虫などを食べる。地上活動者のアカネズミと異なり、頭胴長よりも長い尾でバランスをとりながら、地上や地中の他に樹上でも生活することができる。雌雄共同で子育てを行う。

(同定協力：伊達生物調査事務所 伊達 功 氏)
(参考図書：「リス・ネズミ」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



PERSPECTIVE

Written by Ryuichi Sakamoto

ルーティン化された日常の中、夕暮れ時の美しさに、心と足をとめる方は少なくないと思います。今日を無事に過ごした安堵や、あっという間に一日が過ぎ去ることへの戸惑い、淡い明日への期待など、一瞬心は地上を離れて空に引き寄せられます。

安定した毎日と同じ事を繰り返すだけになると、ちょっとつらいですね。それを回避すべく、たまに視点を変える事は大事です。PCがアップデートされるように、自分にはなかった新しい要素を更新する。

そのためには、「今は無理」や「余裕がない」という壁を取り払う決断も必要です。自然界を見ても、絶えず安定した状態というものはなく、常に“動的平衡”の中で一定の秩序が保たれているようです。



いつもの帰路から外れた茄子焼山周辺、澄んだ夕空に浮かぶ金星と木星

【動的平衡】絶え間ない流れの中で、一種のバランスのとれた状態のこと。乱雑な方向へ動こうとするエントロピー増大の法則に抗って、自らを先んじて壊し再構成して生体を保つこと。

PerspectiveはYMOという祭りの“散開”前の残り火のような位置づけの曲です。物憂げかつ美しい旋律が印象的で、その奥行きからは新しい境地も感じられます。たんたんとした歌詞の裏には、『我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか』という、P.ゴーギャンが残した深遠なテーマを内包しているようにも感じます。真実が一つではないように、視点もまた無数にあり、空もまた変わり続けます。 参考図書：福岡伸一『ゆく川の流れば、動的平衡』



アミハリ・バーズ
Vol. 49

ヒレンジャク

科名：レンジャク科
全長：約17.5cm
生態：冬鳥
分布：全国

今年は5年振りにヒレンジャクとキレンジャクの群れを見る事ができました。目撃した初日はひどい吹雪で、ナナカマドに飛翔したレンジャクたちは「食わんとしのげん！」といった状態で、急いで実をついばんでいました。

鳴き声

チリチリチリ、
ヒーヒー

毎年、大陸から渡って来る数に変動が大きく、シベリアの種子が豊富だと渡りをしないケースもあるのだとか。

回復した天候の中、レンジャクたちは3日ほどかけて実を完食し、どこかへ去って行きました。連なる雀と書いて連雀さん、また数年後にお会いしたいです。



K. Miyano
'23

これまで「網張ビジターセンターヒストリー」と題して、「自然ふれあい行事」、「企画展示」、「印刷物」、「人（ビジター）」、「施設・園路」、「いきもの」をテーマに振り返ってきましたが、ヒストリーの締め括りは毎号のニュースレターを楽しみにされ、また、熱心に読んで下さっている皆さまからのご感想をお寄せいただきましたのでご紹介させていただきます。

「ニュースレター」賛歌
滝沢市 遠藤 正紀 様



久しぶりに「ビートルズ」を聴く。ニュースレターの「空の散歩」に触発されたのである。音楽には全く素養はないが、色あせることのない名曲に、遠くに霞んでしまった青春が鮮やかによみがえった。登山を愛好する者として、空や雲は、観天望気の対象として眺めることはあっても、その情景に音楽をはせる豊かな感受性や人生観、死生観にまで敷衍する視点には、大いに目を惹かれた。

「網張の生き物たち」や「アミハリ・バース」は、毎号、興味津々である。絶妙な一瞬をとらえた写真と相まって、鳥類はもとより昆虫、爬虫類、菌類等まで、日頃気にもかけなかった自然界の有り様に、知識の会得はもとより畏敬の念まで抱かされる。

また、限られた紙幅にあって、各事業報告、インフォメーションも実に簡にして要である。

以上、感想の一端を記したが、「ニュースレター」が、これからも多くの読者に愛され、郷土の豊かな自然への理解とふれあいの端緒となっていくものと信じてやまない。

終わりに、コロナ禍の中、貴センターの創意工夫のもと、当会（滝沢市山岳協会）との共催事業が支障なく行われていることに感謝する。

盛岡市 鈴木 充 様



「知らぬが花」という言葉がある。実は昨年暮れ、市内のカメラ店で年賀状 30 枚を印刷した。年々交際範囲が狭くなり「年賀状や一めた」と言い出す人も出てきて、30 枚では余るかもとの危惧があった。そこで今まで出した事のなかった網張ビジターセンターに年賀状を出した。もちろん返信は期待していなかったが、多分 Bさんの字体で「ニュースレターに何か書いてくれ」と依頼がきた。Bさんは承知していると思うが、何しろ室内が荒れ放題で過去のニュースレターが見当たらない。必死に探して出てきたのが 2022 年 7 月の 103 号。一面にマダラカマドウマの脱皮の写真。子供の頃に「便所コオロギ」と呼んでいたのがカマドウマ？あまり歓迎はされない虫だった。そこに光を当てるのが網張ビジターセンターの魅力か。2面は一転して「月日は百代の過客にして、行かふ年もまた旅人也」とおくの細道が。高校時代、古文の時間に暗誦させられた。そのおかげで今でも源氏物語の桐壺の冒頭は暗誦できる。天台宗本覚思想の「草木国土悉皆成仏」との共通性について私に議論できる知識はない。この文は誰が書いたのか少々興味がある。

アミハリ・バース Vol.45 はクロツグミ。以前観察会でイカルの声と思ったら講師の伊達さんにクロツグミの声と言われ自信を失った事が思い出される。

東京都 時田 利江 様



登山で訪れた際に網張ビジターセンターのことを知りニュースレターを手にして、一面の「網張の森の生き物たち」の写真に興味を持ちそれ以来愛読しています。手元には 63 号からファイルしてあります。雪の上を歩くカワゲラや枯葉の中のフユシヤクなど網張の森に生きる小さな生き物たちに注ぐやさしい視点は、あらためて生き物の世界の不思議を感じさせてくれます。カマドウマの産卵管が脱皮したては半透明なことを詳しい解説のおかげで知りました。

また、「アミハリ・バース」のスケッチは毎号素敵です。淡い色彩の中のコサメビタキはとってもキュートですし、オオアカゲラのオスとメスはユーモラスですね。これは写真ではなくて丹念に細かなところまで行き届いたスケッチだからこそと思って、いつも楽しみにしています。私もこれを読んで小鳥たちに会いたくなりました。私は双眼鏡を買い、夫には写真を撮ってくれるよう頼み、今では夫婦ともに野鳥の世界にはまっています。「自然観察会報告」では、自分も参加した行事を振り返ってみると、鞍掛山麓の春にナガハシスミレの距をまじまじと見つめたことや紅葉の秋のハイキングが思い出されます。冬のスノーシューで冬芽を観察していると春を待つ気持ちを共有したように感じました。

このニュースレターを毎号楽しみ読ませていただいています。これからも長く続けられることをお願いします。

長野県松本市 加藤 美津子 様



縁があって網張の風が信州松本に届きます。一度登った岩手山を思いながら、4 ページの中には人智では及ばない自然界の営みの豊かさや奥深さ、命の力強さ等…目を見張る事ばかりです。VC スタッフの豊かな観察力、情熱はすごいなあと、不思議な未知の世界へと私を誘ってくれます。各種イベントもとても楽しそうで、私に翼があったら飛んでいって参加したいのになあと思います。ますます充実したニュースレターを楽しみにしている 74 歳の山好きバァバの応援つばやきです。

花巻市 伊藤 修 様



「ニュースレターの魅力は？」ともし聞かれたら「網張の森のようすがたくさんわかりいろいろな観察にも役立つことです」と私は答えます。もちろんビジターセンターの自然体験会で森の様子は見たり聞いたりできます。しかし一年間を通して体験会に参加するのは難しいことです。それゆえ網張の自然の様子をさらに知るにはニュースレターがかかせない役割を果たしているものと思います。長く掲載されている「網張の森の生き物たち」や「アミハリ・バース」では生息する生き物の特徴などを教えてくれ、知識が豊富になり、それがまた森に踏み込み生き物たちを観察する時に頭に浮かび、図鑑がわりとして役立つしてくれているのです。いつの日にか、ニュースレターに紹介された写真や絵や記事が「網張の自然博物誌」と題してまとめられ、さらに役立つものになればいいなと夢見ているところです。網張の森でヒメボタルの光や無数の星の輝きも親子一緒に観察できるこのような素晴らしい自然環境の大切さをスタッフの方々は見失わずに、その思いをこめて編集に携わっている様子が目に浮かびます。ご苦勞をおかけしますが自然を愛する者のため、今後どうぞよろしくお願い致します。

これからも網張の自然の魅力を伝えられるようスタッフ一同取り組んで参ります。

実施いたしました行事は、新型コロナウイルス感染症対策に重点をおきながら開催いたしました。今後開催予定の行事につきましても、引き続き対策を講じながら行ってまいります。

3/12 「雪の鎌倉森をめざす」 (冬山登山体験)



雪の状況から今回はかんじきを選択。多くの方がかんじき初体験でしたが、パークボランティアの皆さんの助けを借りて各自装着し山頂を目指しました。途中でシジュウカラやウソ、ホシガラス等との出会いも。モモンガの食痕や大量のフンもあり、モモンガの生態についての解説もありました。風も無く汗ばむくらいの陽気で、山頂から雄大な岩手山を眺めることもできました。「青空の鎌倉森。気持ちよく登山できた」参加者感想より。総勢27名参加 (写真提供：岩手山地区パークボランティア)

1/28 ミニプラス 「イグルー作り」に挑戦



イグルーは圧雪ブロックを使って作るかまくらのようなものです。参加者は3つの班に分かれ、岩手山地区パークボランティアの各班のリーダーの下でイグルー作り挑戦しました。まず雪を踏み固め、ブロック状に切り出し、ドーム状に積み重ねていきます。班によってそれぞれ個性ある仕上がりになりました。総勢16名参加

インフォメーション

4/2 「根開きのブナの森で春をさがそう」

9:30~14:00 網張ビジターセンター集合
定員:20名 ※要予約
参加料:大人 500円 小学生以下 300円
(スノーシューレンタル別途100円)

5/7 「鞍掛山麓 花愛でるハイキング」

9:30~14:30 たきざわ自然情報センター集合
講師:工藤 宏 氏(岩手植物の会)
定員:15名 ※要予約
参加料:大人 500円 小学生以下 300円
共催:滝沢市・滝沢市山岳協会・
(一社)滝沢市観光物産協会

毎週土日祝日開催「ミニ企画行事」

10:00~11:00 網張ビジターセンター集合
内容:「森林浴散歩」や「生きもの探検隊」等、
網張の自然とふれあう行事
(毎月HP・FBに掲載)
定員:各7名 ※要予約
参加料:一人300円

●●▲●● 依頼行事 ●●▲●●

2/10 滝沢市スポーツ推進委員 「雪上ハイキング」



普段スポーツを指導されている方々が、網張で雪の感触を楽しみ木々の観察をしながら森の奥のマザーツリーまで行って来ました。7名参加

2/15・3/15 ウェスタルクラブ 「雪上ハイキング」

ヨガやウォーキングをはじめカヌーやカーリング等様々なスポーツを楽しんでいる盛岡のウェスタルクラブの皆さん。2月はスノーシューを、3月のはかんじきを履いて、今年も恒例の雪上ハイキングを楽しみました。延べ19名参加



たくさんの方に国立公園を楽しんでいただけるよう依頼行事にも取り組んでいます。

大好評! 「網張の森雪上ハイキング」



1月から毎週土日に開催している雪上ハイキングは今年も大好評です。3月のある日はフランス人のご家族にご参加いただき、雪上を歩くクロカワゲラの仲間や冬芽、モモンガの食痕等を観察し、冬の森の生きもの様子を楽しんで頂きました。(写真提供：参加されたご家族より)

冬季企画「センサーカメラで撮影された動物写真展」人気投票結果発表!



ビジターセンターでは、網張の森に3台のセンサーカメラを設置し、森で活動する生きものを調査しています。写真展では1年を

通して撮影されたテン、ウサギ、アナグマ等10種類の生きもの写真を展示しました。人気投票第1位は断トツでニホンリスでした。皆様のご投票ありがとうございました!

◆◆ 現在開催中のビジターセンター企画展 ◆◆ 3月1日(水)~4月30日(日) - 細川 敬次 写真展 - 「山スキーで行く八幡平」~絶景の雪山を楽しむ~



「2020年から2022年エリア内の冬山を山友と歩き見た絶景を展示。登山準備はネットで天気を読むことから始まる。好天を選んで早い時間から行動していると、感動の場面に出会うことも多くなる。よい山友に恵まれて笑顔で楽しい山歩きを続けて現在に至る。楽しみを人にも分ける山上手」 - 出展者の言葉 (一部抜粋) より -

モモンガのつぶやき

鎌倉森登山行事の下見の途中で、雪上におびた数々の芽鱗が落ちていたのを目にした。周囲にはスパッと切れた小枝もある。いずれもミスナラの冬芽を食べた跡のようだ。俵型のフンも見つかった。どうやらモモンガがここで食事をしたようだ。私自身は昨年4月の「ブナの根開き」行事の際に網張温泉スキー場の林間の複数箇所でもモンガのフンを観察したが、今回は数時間前に活動した跡である。にわかにモモンガを身近に感じワクワクしてきた。ビジターセンターからそう遠くない所にモモンガが生息している。その事実ほっこり。いつか姿を確認できるかな。(C)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 1月 976人 ◆ 2月 984人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 1月 -7.5℃ ◆ 2月 -11℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)
TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778
URL <http://amihari17.ec-net.jp>
E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期 (11月から3月末まで) 9時~17時 毎週火曜日休館